春の特別展

1・2階展示室

2009年4月18日（土）～5月31日（日）

東山魁夷をめぐる日本藝術院の作家たち

日本藝術院は、卓越した芸術作品の制作や芸術の進歩に顕著な貢献をした者に、昭和16年よりほぼ毎年、日本藝術院賞を授与しています。東山魁夷（1908-1999）は、昭和31年に日本藝術院賞を47歳で受賞し、戦後の新たな日本画を創造する契機となりました。本展では、魁夷の受賞作「光昏」をはじめ、魁夷の恩師・結城素明、同級生・加藤栄三、山田申吾、同時代に活躍した高山辰雄、上村松篁など、藝術院賞受賞作家たち11名の色彩・造形感覚にあふれる作品14点を紹介します。新収蔵作品「月宵」（昭和23）も展示します。

光昏 1955 日本藝術院蔵

第1期テーマ作品展

2009年6月5日（金）～7月15日（水）

北欧、自然と人々を訪ねて

1階展示室

デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド。昭和37年に北欧4カ国を旅した魁夷が描いた、素朴で愛らしい版画詩画集『北欧紀行　古き町にて』を紹介します。湖と豊かな森、少年時代に憧れた童話の世界、自然と共に生きる人々との出会いをつづります。

「北欧紀行 古き町にて」より（リトグラフ）

森の旋律／音楽の聞こえる風景

2階展示室

魁夷は、制作のかたわらでクラシック音楽をこよなく愛していました。音楽への共感はやがて自らの絵画世界へと導かれ、森の木立ちは、あたかも音楽を奏でる音符のように旋律を刻みます。魁夷の描く風景に流れる音楽の調べに耳を澄ませてください。

緑響く（木版画）

第2期テーマ作品展

2009年7月18日（土）～9月13日（日）

かいいを読む／絵のなかのものがたり

1階展示室

絵に添えられた魁夷のことばには、風景の扉を開くための鍵が秘められています。描かれた風景と接しながら、静かに魁夷のことばを感じてみましょう。心のなかで作品に語りかけると魁夷の風景に対する想いが伝わってきます。

コンコルド広場の椅子B（エッチング）

小さな扉／夢をつづる、季（とき）を唄う

2階展示室

12カ月の季節の表情を描いた「季の詩」（昭29）と、格言や諺をテーマにした「夢の詩」（昭30）。魁夷が手掛けた2年間の『新潮』表紙絵を紹介します。単純明快なかたちと色彩で描かれた小さな絵画から、夢の扉を開き、季節を楽しむ魁夷の姿が垣間見えます。

夢の詩6月（リトグラフ）

季の詩8月（リトグラフ）

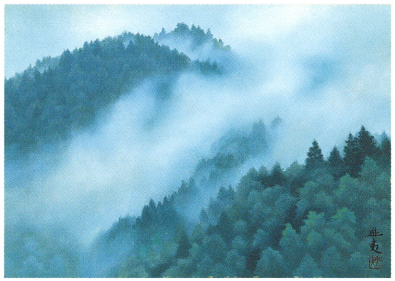
秋の特別展

1・2階展示室

2009年9月19日（土）～11月3日（火）

日本画のモダニズムと現代／自然、感性、躍動

自由主義的な個性を尊重した魁夷の師・結城素明や岳父・川崎小虎、伝統美の再考を重視しながら独自のモダニズムの作風をみせた魁夷や橋本明治、日本本来の美意識で親しみやすく身近な生活に題材を求めた小倉遊亀など、大正から昭和そして戦後へと、めまぐるしく移り変わる時代に生きた個性派の日本画家たち。西洋美術の積極的な受容から、日本的傾向の再興、伝統的な日本美と現代における感性の融合へと、光彩を放ちながら活気を取り戻していった日本画の軌跡を、佐久市立近代美術館所蔵の名品を中心に辿ります。


山雲湧く 1974 佐久市立近代美術館蔵

第3期テーマ作品展

2009年11月7日（土）～2010年1月24日（日）

青の風景／魁夷が心に描いたもの

1階展示室

魁夷が描く青い世界。深く静まりかえった魁夷の心の奥底を、月の光が静かに照らし、森の影が寄り添います。全てを包み込むように広がる静寂の光景、ひそやかに語りかける静かな心象風景を紹介します。

月宵（絹本彩色）

雅（みやび）／日本の風景

2階展示室

冬の雪、秋は月、春は花。四季折々の自然を愛でる繊細優雅な日本の美のこころ。魁夷にとって、移り行く風景とのめぐり合いは一期一会の出会いです。京都を中心に美しい色彩に彩られた風景の歳時記をひもときます。

秋彩（リトグラフ）

第4期テーマ作品展

2010年1月27日（水）～4月11日（日）

濤声（とうせい）／波の鼓動

1階展示室

魁夷が各地を取材して描いた海の風景を展示します。奈良の唐招提寺障壁画「濤声」は、日本の風土の象徴として描かれ、魁夷が永遠の生命の鼓動を感じたという波の音が聞えてくるようです。

潮満つ（リトグラフ）

想い出の都／独逸への旅立ち

2階展示室

昭和44年、魁夷は東京美術学校卒業後2年間の留学生活を過したドイツへ、36年ぶりに訪れました。美しく保たれた古い都、清らかな自然。記憶と変らぬ姿に再会し、若き情熱を甦らせた魁夷の、想い出の風景を紹介します。

晩鐘（リトグラフ）